

真心のこもったプレゼント

白川中学校で孫の手製作

4月25日、白川中学校で、約40年前から続く伝統行事「孫の手製作」が行われました。この活動は、敬老の精神と心豊かな人間性の育成を目的に行われ、完成した孫の手は、毎年地区の敬老会で米寿の方へプレゼントされています。この日は、全校生徒27人が五つの縦割り班に分かれて製作。3年生が中心となり、下級生に作り方のポイントなどを指導しながら1本1本心を込めて作っていました。

白川中学校は平成31年4月から東中学校と統合となるため、今年が最後の孫の手製作。今回は、地域の方々も参加して孫の手を一緒に作りました。

参加した生徒は「お年寄りの方が持ちやすいように、丁寧に削りました。大事に使ってもらえると嬉しいです」と話していました。生徒たちが作った孫の手は、9月の地区敬老会で米寿を迎える方々に贈呈される予定です。



1_自分たちが製作した孫の手の使い心地を確認する生徒たち。きっと米寿の方々にも喜んでもらえるはず 2・3_ガスバーナーで竹をあぶって曲げやすくしてから、手の部分に曲がりをつける。地域の人にコツを教える生徒

伝統の技、あかりで魅せる

白石和紙あかりワークショップ

5月13日、壽丸屋敷で「白石和紙あかり製作ワークショップ」が開催されました。この企画は、白石和紙づくりの技術を継承し、生産を担っているまちづくり団体「蔵富人」が主催したもの。この日は市内や仙台市から10人が参加し、木の枝などで骨組みを作り和紙を貼り付けていくなど、思い思いのあかり作りを楽しんでいました。参加者は「和紙を通して、あかりがいろいろな表情に変わるのが面白いです」と話してくれました。

ワークショップは第2回を6月17日に、第3回を7月8日に開催し、各回で製作した作品は、8月の白石夏まつりに合わせて壽丸屋敷で展示されます。

また、壽丸屋敷では蔵富人主催の「白石和紙展示会」を開催しています。白石和紙の作り方や製作物など、多くの展示物があります。入場無料ですので、ぜひお越しください。



1_ワークショップで製作に打ち込む参加者たち 2_蔵富人が製作したあかり。白石に伝わる「白石噺」の仇討ちの一幕が描かれています 3_「白石和紙展示会」の展示物。白石和紙は宮城県民栄誉賞の賞状にも使われています

温かく地域を見守ります

「民生委員・児童委員」一斉活動

5月11日、市内の民生委員・児童委員約100人がすまいるひろばに集まり、高齢者世帯などを対象とした一斉訪問活動の出発式を行いました。対象は一人暮らしや寝たきりなどの高齢者世帯など約2,000世帯。各地域の委員が家庭を訪問し、相談に応じて必要な支援を行います。

出発式ではスローガンを確認したり、行動宣言を読み上げたりして活動の意思統一を図りました。日常生活での困りごとや児童に関する相談は、民生委員・児童委員にご相談ください。



▲出発式でスローガンを確認し合う委員の皆さん

白石城でよさこいの祭典！

YOSAKOI in 白石城

4月22日、5回目の「YOSAKOI in 白石城」が開催されました。晴天に恵まれたこの日は、宮城県と福島県のよさこい団体16組210人が白石城に集結。日ごろの練習の成果を発揮し、はつらつとした笑顔と躍動感ある演舞、力強い旗振りで、訪れた観客約400人を楽しませていました。最後は総踊りで締めくくり、会場全体が盛り上がりを見せていました。

来場者は「チームごとに個性があり、とても見ごたえがありました」と話してくれました。



▲白石城を背に力強い踊りを披露する出演者たち

800匹のこいのぼりが歓迎！

第15回春の検断屋敷まつり

4月30日、「第15回春の検断屋敷まつり」が小原の材木岩公園で開催され、白石川をこいのぼりが雄壮に泳ぐ中、約4,000人の観光客が訪れました。まつりでは和太鼓演奏やだるま落としゲーム、紙ヒコーキ飛ばし大会などのイベントが企画され、大人も子どもも夢中で楽しんでいました。市外から訪れた人は「男の子が生まれたので、こいのぼりを見せたくて初めて来ましたが、とてもすごい数のこいのぼりに驚きました」と笑顔で話してくれました。



▲見物人が見守る中、だるま落としゲームに挑戦する親子